

第7回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会

—ヘルスビッグデータを活用した介護予防・医療DXの最前線—

【主催】一般社団法人ヘルスデータサイエンティスト協会

【共催】大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構統計数理研究所共同研究「医療・看護・保健分野におけるデータサイエンティスト育成のためのシステム構築の検討」

【後援】オムロンヘルスケア株式会社，株式会社医療経営研究所，株式会社オデッセイコミュニケーションズ，株式会社 Open Health Initiative，株式会社 JMDC，株式会社社会保険研究所，株式会社社会保険出版社，株式会社タクミインフォメーションテクノロジー，株式会社フェース，株式会社リコー，スリーワンシステムズ株式会社

【日時】2022年3月29日(火)15時00分～16時40分

【形式】Webセミナー（Zoom ウェビナー）

【開催趣旨】

近年、保健・医療・介護等の領域において収集・蓄積されるリアルワールドデータを利活用し、新しいヘルスサービスの価値創造に如何に結びつけるのか、そのためのデータアナリティクスの方法やマネジメント方式の研究が注目されています。しかし、まだ具体的な分析事例の検討や教育の方法が未だ標準化されていないのも事実です。

本研究会では、医療・健康系関連の従事者やデータアナリティクスに広く関心をもつ方々を対象に、特別講演とデータ利活用の事例発表をベースに、最近の動向と方法論を、質疑を通して講演者に平易に解説していただきます。

今回は、「介護予防・医療DX」をテーマに、総務省の「第6回地方公共団体における統計データ利活用表彰」で、最高賞となる総務大臣賞を受賞した佐賀市におけるビッグデータを活用した介護予防推進事業「介護予防DX」の取り組みに関して基調講演をお願いしています。この取り組みでは、ヘルスビッグデータの活用とあわせて、デジタル技術を駆使して健診や受診を促す事業に結びつけた点が高く評価されています。また、ヘルスデータアナリティクス事例報告では、大規模公的マイクロデータ活用による日本における男性介護者の生活時間からみた社会的孤立要因の検討、病院内の電子カルテ活用による患者病態像の推移分析と介入マネジメントの方策などを紹介します。

ヘルスケア領域の統計解析に関心のある医療専門職者・医事関連職者・ヘルスケア関連研究者・ヘルスケア関連会社関係者、実務家、学生など、ご関心をお持ちのみなさまには是非ご参加のほどお願いいたします。

【プログラム】

15:00～15:05 開会挨拶

15:05～15:55 基調講演

「佐賀市介護予防DX～データを活用した介護予防推進事業～」

菅 祐亮 氏(佐賀市 保健福祉部 高齢福祉課 長寿推進係)

概要：高齢化の進展やコロナ禍により、今後、フレイルや認知症など何らかの支援が必要な高齢者が更に増加することが想定される。佐賀市では、市が保有する医療・健診等ビッグデータを活用し、科学的根拠に基づく効果的・効率的な対象者の抽出、介護予防のための最適な支援を行うための仕組みづくりを実施している。本講演では、高齢者の重症化予防・介護予防の『佐賀市モデル』の取り組みについてご紹介いただく。総務省「第6回地方公共団体における統計データ利活用表彰」総務大臣賞受賞。

15:55～16:35 ヘルスデータアナリティクス事例報告

報告 1

「脳卒中長期入院患者における日常生活動作（ADL）状態像の評価構造と推移パターン
—データ駆動型精密クリニカルパスの設計に向けて—」

古田 裕亮 氏(恩賜財団済生会神奈川県病院)

概要：多様な後遺症を呈し長期の経過をたどる脳卒中リハビリテーション入院では、患者の状態ごとに目指すべき臨床像とそのタイミング、帰結の改善に向けた、回復過程と要因の分析が求められている。本報告では、病院電子カルテ情報を用いて、脳卒中入院患者の潜在的ADL状態像の推移パターンにおけるADL状態像の改善に影響のある要因を分析した結果を紹介する。結果の一例として、入院時に身体面で重度介助、認知面で中等度介助を要する患者の35%が3ヶ月以内にADL状態像の改善を達成し、非麻痺側下肢筋力低下、体幹機能障害、方向性注意障害、右半球損傷、麻痺側股関節運動麻痺がADL状態像の改善に阻害要因となる可能性が示された。これらは、患者の状態像による個別化と、状態像変化の要因が考慮された治療計画に貢献する。

報告 2

「社会生活基本調査匿名データを用いた社会的孤立要因の検討
—潜在クラス分析による単身男性介護者の生活パターンの類型化—」

田上 紀代美 氏(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科)

概要：2020年に高齢化率が28.8%と過去最高となり、家族構成の変化や未婚率の上昇に伴って、男性介護者の中でもとりわけ単身男性介護者の増加率が高くなっている。有業者は仕事と介護の両立が困難となり介護離職に追い込まれやすく、社会とのつながりが閉ざされることで孤立し社会的な問題となっている。今回、平成18年社会生活基本調査匿名データを用いて、単身男性介護者の生活パターンから社会的孤立要因を分析検討した結果を報告する。抽出された18セグメントから介護・看護時間が長い特徴的な2セグメントを特定した。その結果、低収入で余暇活動時間も制限された介護中心の生活パターンが浮き彫りになり、厳しい介護生活の実態が明らかになった。

16:35～16:40 閉会挨拶